

平成24年度 海域の物質循環健全化計画三津湾地域検討委員会（第2回）

第1回検討委員会指摘事項に対する対応内容

委員名	指摘事項	対応内容
（1）全体工程と平成24年度検討スケジュールについて		
濱浪委員	いくらでも発生するカキ殻の処理には本当に困っている。これが底質改善等に役立つのであれば、本当にありがたい。	（地域WG事務局）底質改善対策の手法として、カキ殻を用いた底質改善材の混合について検討した。→資料3
（2）平成24年度現地調査について		
谷本委員	底質の溶出試験でDIN、DIPの分析はしないのか。	（地域WG事務局）現地調査項目として採用し、分析を行った。→資料2
谷本委員	アマモは葉から栄養塩を吸収する訳ではなく、根が底泥から吸収する。水中の栄養塩類の利用は、植物体表面に付着する珪藻などによるものが大きいと考えられる。	（地域WG事務局）文献の収集を進めているが、情報が少ない。
高橋委員	流れはそれ程厳密に底近くを取る必要は無いが、DOについては、極力底近くの方がよく、海底に設置できたらベストである。	（地域WG事務局）DOは底上0.5mで測定を実施した。→資料-2
（3）春季調査の実施状況について		
谷本委員	アマモの最大草長は花枝の長さではないか。	（地域WG事務局）花枝の長さであった。但し、アマモの粗密は湿重量で整理している。→資料-2
齊藤委員	以前話に出た、湧き水の位置との関係は分かったか。	（地域WG事務局）夏季調査時に、藍ノ島周辺で複数箇所、クロロテックによる測定を行ったが、観測結果からは確認できなかった。